

「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

熊本県地域セミナー 報告書

2019（令和元）年8月1日（木）に、「スポーツ庁 オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」熊本県地域セミナーが開催されました。当日は、今年度の推進校の先生方23名に参加いただき、下記の要領で行われました。

【開催概要】

日時：2019（令和元）年8月1日（木）14時00分～16時30分

会場：くまもと県民交流館パレア 10階 会議室8

主催：熊本県教育委員会、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

参加者：23名

プログラム：

14:00～14:10 開会挨拶

熊本県教育庁 教育指導局 体育保健課
課長 西村 浩二 氏

14:10～14:45 事業概要説明「スポーツ庁オリンピック・パラリンピック・ムーブメント事業の概要」

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター
主幹研究員 吉永 武史 氏
研究員 岡田 悠佑 氏

14:45～15:00 休憩

15:00～16:20 講演 「夢の力」

二條 実穂 氏
(リオデジャネイロ大会 車いすテニス出場)

16:20～16:25 諸連絡

熊本県教育庁 教育指導局 体育保健課
指導主事 寺田 幸司 氏

16:25～16:30 閉会挨拶

熊本大学大学院教育学研究科
シニア教授 中川 保敬 氏
(ひとづくりくまもとネット 理事長)

開会行事では、熊本県教育庁の西村氏より挨拶がありました。西村氏からは、今年の熊本県では、8月にインターハイ（南九州大会）、10月にラグビーワールドカップ、11月に女子ハンドボール世界大会があり、子どもたちに「本物のスポーツ」を見せる貴重な機会が多くあることから、オリンピック・パラリンピック教育を通して、子どもたちに感動を与えられるような実践を行ってほしい、と本事業への抱負が述べられました。ま

た、インターハイの運営に高校生が関与している姿を見て、スポーツを「する」だけでなく「支える」ことの大切さを感じて、スポーツとの多様な関わり方を保障していくことも大切である、とお話いただきました。

続いて、本センターの吉永主幹研究員、岡田研究員より、事業概要や実践事例について説明がありました。吉永主幹研究員からは、本事業が始まった背景、学習指導要領におけるオリンピック・パラリンピック教育の位置づけ、本事業の年間の取り組み等についての説明がありました。次に、岡田研究員から、実践計画の立案の仕方、校種ごとの教科の学習と関連付けた実践について紹介がありました。また、「オリンピック・パラリンピックに関する指導参考資料」(スポーツ庁)や「I'mPOSSIBLE」(パラリンピックサポートセンター、JPC)等のオリンピック・パラリンピック用教材や「夢に向かって」(早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター)、「WHO I AM」(WOWOW、IPC)等の映像資料も紹介されました。



西村氏の挨拶



吉永主幹研究員の講義

休憩の後、「夢の力」というテーマで、元車いすテニス日本代表の二條氏(リオデジャネイロ大会出場)の講演が行われました。車いすテニスのルール、生き立ち、障がいを負ってから競技を始めるまで、そしてプロ選手となってリオデジャネイロ大会に出場に至るまでの出来事について、その時々感じた想いとともにお話いただきました。仕事上の事故でケガを負った二條氏がテレビで車いすテニスを見て中学生のときに始めたテニスができると思い前向きになれたこと、退院後に職場の人たちが「困ったことがあればその場で助けるから」と言ってこれまで通りに接してくれたことで、自分に起こる「全てのことに意味がある」と思い色々なことに挑戦していこうと思えたこと等についてお話されました。また、友人や家族、さらにはスポンサーの方々などの支えてくれた人々への「感謝の気持ち」が原動力となり、パラリンピックという大きな目標に向けて頑張れたそうです。最後に二條氏は、自らが大切にしている4つのこと(「自分の中の小さな好きを大切にする」、「夢を言葉にし、宣言する」、「他人と自分を比べない」、「私には無理と絶対に言わない」)を紹介されました。また、実際に学校で児童・生徒に対して講演をする際に気を付けていること等についてもお話されました。

最後に、中川氏による閉会の挨拶があり、散会となりました。



二條氏の講演



中川氏の挨拶